

JET からの手紙

桐生市への帰省

群馬県桐生市教育委員会 外国語指導助手

Ivan Jim Saguibal Layugan (アイバン・ジム・サギバル・ラユガン)

きっかけ

私は、長野県軽井沢町の姉妹都市であるフィリピンのバギオ市出身です。ユネスコ創造都市^(注)として知られ、夏に多くの観光客が訪れるバギオ市で育ったおかげで、早くから異文化理解の重要性を感じてきました。このことがキャリアの道にも影響を及ぼしています。

大学時代に、研究助手として災害の影響に関する研究に携わるなかで、毎年フィリピンを襲う大型台風によって女性や子どもが被害を受けているにも関わらず、その支援の必要性にあまり目が向けられていないことに気づきました。こうしたギャップを埋めるために、研究と教育が役立つと感じ、研究を続ける傍ら、教師になることを決意しました。

JET に踏み出すまで

私の目標は、小学校から大学までのあらゆる課程の教師を経験することです。出身校で、高校生に向けたクリエイティブ・ライティング(文芸創作)の授業を受け持った後、大学で言語学や社会学などを教えました。



群馬県 JET 参加者と冬の雄大な鳴神山

その後大学で、人間、特に子どもへの新型コロナウイルス感染症の流行の影響を研究したことにより、小学生や中学生、高校生に教えたいと思うようになり、JET プログラムに応募しました。JET プログラムの応募書類には、配置先として群馬県桐生市を第一希望とする、と記入しました。大学時代に、災害報道のあり方について学ぶため、桐生市でフィールドワークをしたことが印象に残っていたためです。そのため、JET プログラムを通して桐生市に戻れたことに大きな喜びを感じました。

桐生市での生活

東京から電車で2時間の場所に位置する桐生市は、スタジオジブリの映画の中にいるような、のんびりとした魅力があります。夏は暑く、日本で最も暑い都市ランキングに入るような場所ですが、それは桐生市民がとても温かく、太陽のような性格を持っているからだ、私はよく言っています。

桐生市では、日本語が話せなくても困ったことは一度もありません。上司から同僚の先生まで皆とても温かく、まるで地元にいるかのように感じています。例えば、一



JOMO JET 国際カーニバル(国際交流祭り)でのフィリピンブース

人で過ごす年末年始の休暇に、同僚の英語の先生に食事に招待していただいたり、発熱した時に、教頭先生が食べ物を持ってきてくださったりしました。

フィリピンからの JET 参加者は、小さいながらもしっかりとしたコミュニティーを持っており、時間がある時にはお互いに訪問しあったり、一緒に活動したりしています。毎年、JOMO JET（群馬県の JET 参加者の団体）が、群馬県で国際カーニバルを開催しています。私は、そこでフィリピンにルーツがある ALT（外国語指導助手）と一緒にブースを担当し、カーニバルの参加者に、フィリピンの食べ物や製品、10-20 と呼ばれるフィリピンのゲームを紹介しました。

教育と研究の両立

桐生市は、多くの ALT を任用しています。各中学校に 1、2 人の ALT が配置され、週に 1、2 回、少なくとも一つの小学校を訪問します。また、毎学期に「ALT デー」を開催し、生徒が楽しく英語を使いながら学習できる機会を提供しています。具体的には、他の学校から 4、5 人の ALT が一つの中学校に来校し、生徒と一緒にゲームをしながら、授業で取り上げた重要表現や文法、語彙をさらに強化させます。

ALT の業務のほかに、自分の留学経験を生かし、桐生市の姉妹都市であるアメリカのジョージア州コロンバス市にホームステイをする中学生の準備をサポートするボランティアもしています。

さらに、毎年の夏休みに開催される、スピーチコンテストの指導もしています。JET プログラムに応募した時、志望理由書に「スピーチコンテストで優勝できるように生徒を全力で指導します」と書きました。2024 年に、



同市 ALT と生徒たちとのスピーチコンテストで（優勝した後）

ついにこの目標を実現することができました。優勝した生徒がフィリピンに縁のある生徒であったため、二重の意味で誇りに思いました。

ALT の活動をしながら、研究活動も続けています。2024 年の夏に参加した東北大学災害科学国際研究所のサマースクールでは、「SDGs の指針により、災害の被害軽減と十分な対応には、政策立案の際に子どもについて言及することが必要不可欠である」と提言しました。この思いは、桐生市での ALT の経験を通じて、より強まりました。また、国際的な NGO と提携し、子どもたちの経験（インターネットの利用や暴力、いじめ、健康、災害時の経験）を調査研究する事業にも、引き続き取り組んでいます。



JET プログラム参加中に国際的な NGO との共同で取り組んだ最近の研究

日本で教えることは、当初は私のキャリアにおける通過点のように思っていたのですが、大きなターニングポイントとなりました。日本に住んで ALT の仕事をすることで自分の視野が広がり、より良い教師、研究者、そして子どもたちの擁護者になりたいとの思いが強まりました。

（注）経済的、社会的、文化的、環境的側面において、創造性を持続可能な開発の戦略的要素として認識している都市のことで、ユネスコが 2004 年に発足させた創造都市ネットワーク（UCCN：the UNESCO Creative Cities Network）に加盟する都市

プロフィール



Ivan Jim Saguibal Layugan (アイバン・ジム・サギバル・ラユガン)

フィリピン出身の群馬県桐生市 ALT。ニックネームは「イアン」。来日前、フィリピンのバギオ大学で助教授、シンガポール国立大学アジア研究所で学生研究員だった。セーブ・ザ・チルドレン、チャイルドファンド、オックスファムなどの国際的な NGO と協力し、子どもの権利に関する研究プロジェクトを主導した。JET プログラムの任用終了後は、博士号を取得し、大学教員に戻る予定。



KIRYUCITY_GUNMA_KIRITORI